

新技術セッションについて(1/2)

■新技術セッションの状況

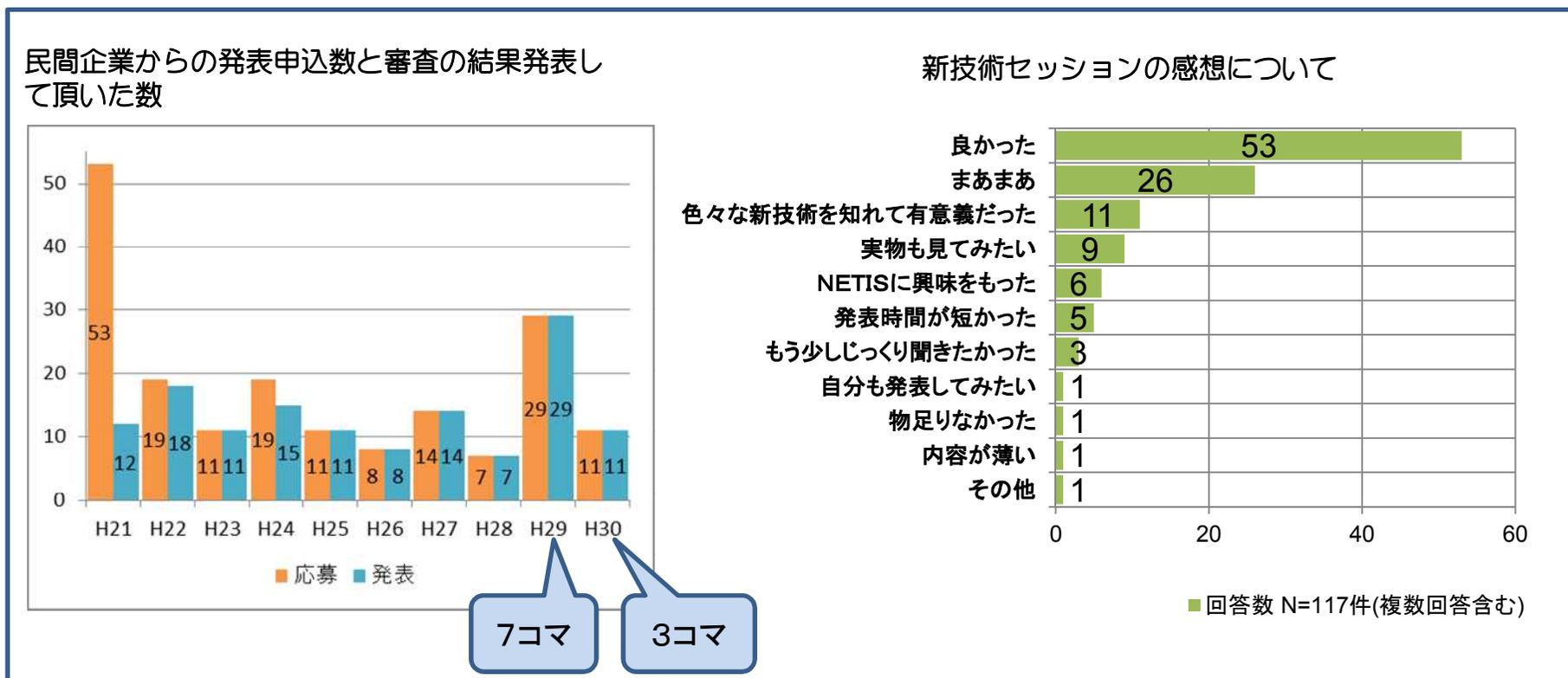
今年度は、発表数が11技術(29技術(前年))、通算参加人数は187名(351名(前年))でした。

今回の発表は、よりニーズに即した技術を精選したため、1コマ当りの聴講者が平均62名(平均50名(前年))となり、聴講者数が増加しました。

質疑応答では、現場目線での質問があり、限られた時間の中ではありましたが、より活用されるための技術改善や新たな技術の開発に生かせる意見交換の場となりました。

アンケート結果から印象に残った活用できそうな技術として記載が多かったのは、「ICT技術を使った熟練技術者の技術継承」、「SWライナー工法」、「GIコラム工法」、「付着強化型排水柵」でした。また、現場での活用が最も期待されているのは、「ICT技術を使った熟練技術者の技術継承」でした。

■アンケート結果



新技術セッションについて (2/2)

■アンケートで記載の多かった技術の写真

- ICT技術を使った熟練技術者の技術継承 (NETIS未登録)
企業名：三津橋建設株式会社 土別支店



**地域に精通した長年蓄積されたベテランの技術者のノウハウ(無くしてはならない技術力)
⇒ICTを使って継承(少子高齢化、担い手不足対策)**

- S Wライナー工法 (KT-150034-A)
企業名：S Wライナー工法協会



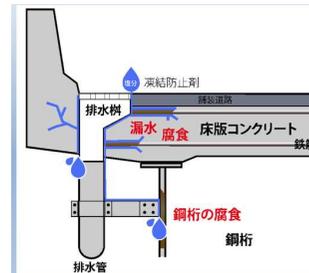
**驚くべき製管スピード！
Φ800 L=50mの製管が約60分程度
(上流から製管するなどの条件下)**

- GIコラム工法 (QS-100022-VE)
企業名：GIコラム研究会



☆重量は30%、接地圧は65%

- 付着強化型排水柵 (HK-180018-A)
企業名：日本車輛製造株式会社



排水柵近傍の懸案事項

- 防水層の施工不良、経年劣化による止水機能低下
- コンクリートとの密着性が弱く、水みちになる
- 凍結防止剤など塩分の影響

↓

- 床版コンクリートの劣化促進
- 床版下面の鋼桁やコンクリート桁の劣化

改善検討策
排水柵をポリマーセメントで被覆して、コンクリート界面との付着強度を向上することにより、止水性向上に繋げる